

SAGAMI VOICE

相模女子大学小学部
学校紹介通信

運動会特集

2023.3改訂

252-0383

相模原市南区文京 2-1-1

TEL.042-742-1444

www.sagami-wu.ac.jp/sho/



New SAGAMI VOICE に寄せて

私立学校には、それぞれの学校に建学の精神があり、教育の特色があります。相模女子大学小学部は、1900年に創立された日本女学校を母体に、1951年に開校した伝統ある学校です。開校当時から、時代を先取り、英語教育やスキー学校、臨海学校を行い、テレビスタジオを備えた視聴覚ホールでテレビ放送なども行ってきました。そして学校行事では、1965年から鼓笛隊が編成され、学園挙げての文化祭“相生祭”で、今でも学園から小田急線相模大野駅までの市中パレードを行っています。

校長室にある古いアルバムを開くと、開校当時の学校行事の様子を見ることができ

ます。木造の校舎、市中パレードのコースとなる商店街など、今では姿をすっかり変えましたが、子どもたちの真剣な表情は今も昔も変わりません。そして張り切る子どもたちを嬉しそうに見守る大人の姿も同じです。

やり方を変えずに繰り返し続ける伝統的なプログラムがある一方で、新たに定番となるプログラムもあります。本校の運動会で例えると高学年男子の“剣舞”や全校児童による“全校演技”です。どちらも新たな挑戦からスタートし、今では運動会のメインプログラムになっています。それを支えているのが担当教員のたゆまない準備と練習計画、そして全教員によるサポートです。

相模女子大学小学部では、学校紹介誌「SagamiVoice」。今回のテーマは運動会です。運動会に向けた取り組みや、見どころなど、いくつかの視点から本校の運動会の姿を紹介いたします。

テーマに基づいて、本校が大切にしていることや子どものありようについてお伝えしたいと思います。これからのSagami Voiceにどうぞご期待下さい。



相模女子大学小学部

Sagami Women's University Elementary School



「やる気」と「優しさ」の集大成！！ 全校演技『なるこ～原点にして頂点』

体育科主任 大熊俊光

4色対抗の熱戦、応援合戦や剣舞・小学部の運動会は見どころがいっぱいです。その中でも特に小学部のパワーを感じられるのが全校演技です。今年も小学部全員の全力を出し切りました。

手具は鳴子(なるこ)を両手に持ちました。今年も3部構成です。第1部は高学年(4～6年生)が入場し「YOSAKOIソーラン編」。第2部は低学年(1～3年生)が元気に入ってきて「群青編」。そして、第3部フィナーレは全員で「鳴子祭り編!」というハイレベルな課題に挑戦しました。

全校演技で伝統的に大切にしていること

があります。その1つは、自ら進んで練習に取り組む姿勢です。あえて難しい動きがあり、すぐにできる動きばかりではありません。それでも諦めずに取り組む気持ちを育てたいと考えています。練習は2週間毎日行いますが、この期間は体育授業だけでなく、自主参加の朝練習も行います。朝練習は7時40分からでした。自主参加にもかかわらず、多くの子ども達がやる気満々で参加しました。すばやく体操着に着替えて、開始予定時刻よりも大幅に早く集まってくる子ども達!このやる気は小学部の凄さだと思います。そして、「全校で」という事は、私

たちが永く大切にしている伝統です。全校演技の成功には、子ども同士の関わりが欠かせません。特に、高学年と低学年の関わりが鍵を握っています。実際に演技をご覧いただくと分かりますが、6年生の隣に3年生、5年生の隣に1年生、4年生の隣に2年生というペア列配置になっています。高学年は低学年に助言をしたり、励ましたり、そして低学年は優しく声をかけてくれる隣の高学年に応えるためにも懸命に練習をします。そんな優しい関係が全校演技の感動につながる土台となっているのです。



教員のチームワークで作る学校

Sagami Spirits

体育科をみんなで 盛り上げて

副校長

小学部自慢の運動会の全校演技は、わずか10日間で完成します。体育科の2名の教員は、この10日間で、全校の子どもたちが完成度の高い演技ができるように、前年度から、計画を立て、子どもたちの前で見本を示すことができるようにしっかりと練習をし、段階を踏んだ綿密な練習計画を立てています。そして、体育科の教員は、全学年を相手にするのですから、1時間目から6時間目まで、毎時間汗だくになって踊って子どもたちを指導します。

そんな「体育科の努力する姿」に、学級担任はただ体育の時間に子どもたちを預けて、「はい、お願いします。」というだけではいけないと感じてきました。運動会の練習期間になると、体育の時間であっても、担任も一緒に練習に参加し、側面から子どもたちを励まし、盛り上げていくようになりました。そして、これがいつの間にか、伝統的な小学部教員の当たり前の姿となったのです。

運動会の全校演技が終わると、自然と教員たちが体育科の教員に握手を求め、抱き合って喜び合います。一人ひとりの頑張りをみんなが支えていく、これがSagami Spiritsです。

《騎馬戦》 全力を出し切ることが、 思い出を豊かなものに

午前中のハイライトは、何と言っても五、六年生合同の「川中島の合戦」を模した騎馬戦です。四人一組で騎馬を組み、赤黄連合軍対青白連合軍で互いの騎馬を崩しあいます。小学部の騎馬戦の時間無制限の「せん滅戦」つまり最後の一騎が崩れるまで続きます。

男子有志の凛々しい剣舞のあと、まずは太鼓の音に合わせて大将馬と副将場が騎馬を組んで大グラウンドの中央へと進み出てきます。陣羽織を羽織り、手には采配(ふさ)をもった大将は堂々たる姿で「やあやあ我こそは…」と口上を述べます。それを盛り上げるように、各組からは鬨の声が上がり、大グラウンドはまるで戦国時代へタイムスリップしたかのように熱気が高まっていきます。

戦いの火ぶたは「ものども、かかれ!」という大将の掛け声で切って落とされます。自分たちの勝利を信じ、相手へ向かっていきます。土埃があがり、下級生からの応援も盛んに聞こえてきます。手を組み合い、相手を

落とそうと力いっぱい押したり引いたりして本気になる子どもたちの額から汗が流れ落ちます。普段は仲良くしていない友だちも、この時は違います。騎上の子は、必死に「早く! あっち!」と敵に囲まれた仲間を指さし、騎馬役の子と助けに走ります。そんな助け合いが勝利へと繋がっていきます。また、「先生、勝ったよ! 三騎も崩した!」と喜び子どもたちの脇で、「悔しい、囲まれて落とされた…」とぼろぼろと涙をこぼす、負けた側の子もたちの悔しそうな表情もまた、見ている人たちに感動を与えてくれます。決着が着くと悲喜交々ですが、全力で戦った記憶はしっかり子どもたちの中に刻まれています。悔しさを味わうこともまた、大きな獲得物になるのです。

毎年たくさんのドラマが生まれる騎馬戦。子どもたちが手に入れるものは、勝利だけではなく、最後まで諦めずに立ち向かうことで得られる充足感なのです。



《剣舞》 伝統の演技を受け継ぎ、心を鍛える



相模女子大学小学部の運動会には、毎年5・6年生の男子有志が演じる「剣舞」があります。高学年男子が凛々しく舞う、伝統ある演目で、運動会の目玉の一つになっています。

運動会前になると、剣舞参加者の顔合わせがあります。初めてでよくわからない様子の5年生を、6年生は正座をし、姿勢を正

した状態で迎えます。これも毎年の伝統的な儀式です。この顔合わせでは、6年生が5年生に剣舞の厳しさ、素晴らしさを伝えるのです。正座をして話を聞いているうちに、5年生の表情もきりっとしていきます。

普段の学校生活ではあまり見られない「武士道」特有の引き締まった空気が、この空間にだけ存在します。

翌日から始まる朝練習では、まずは動きの基本となる「摺り足」を練習します。姿勢を崩さずに進めるようになるまで、ひたすら摺り足を繰り返します。それができるようになってから扇が配られ、踊りの練習に入ります。扇を使った踊りがある程度できるようになってきたら、いよいよ刀が配られます。子どもたちにとってこの刀には憧れがあるようで、渡された時の嬉しそうな表情がそれを物語っています。

剣舞は約3週間の練習で本番を迎えますが、そこでは踊りなどの技術だけを鍛えるわけではありません。むしろ、「時間を守ること」「挨拶をきちんとすること」など、礼儀、生活態度を身につけることに重きを置いています。「心技体」という言葉の通り、まずは「技」と「体」の基盤となる「心」を育てていきます。男子の精神的な成長が伺える、非常に貴重な体験と言えるでしょう。

《応援団》

一人ひとりの努力の先に

入場行進、開会式に続いて行われる応援合戦。4色で競う運動会の競技がここから始まります。応援合戦は各色1年生から6年生までの全員が歌を歌って参加しますが、中心となってパフォーマンスをするのは、4～6年生で構成される応援団です。曲選びから、替え歌の歌詞決め、そして振り付けまでを、団長を中心にすべてこの応援団の子ども達で行います。次々とアイデアを出して皆を引っ張る6年生に対して、4、5年生も「ここはこうしたらいいんじゃないかな。」「もっとこうするときれいに見えるよ。」と積極的に意見を出しながら試行錯誤を重

ねて作り上げていきます。クラスや学年の枠を超えて関わることにより、遠慮せずに自分の考えを伝え、お互いを尊重しながら活動する力が身につきます。

運動会本番。緊張感に包まれる中、応援合戦が始まりました。どの色も、これまでの練習の成果を存分に発揮できるように全力を出し切りました。勝ったチームだけではなく、惜しくも敗れた色の団長が「全部出し切ったから、満足です!楽しかった!」と笑顔で言うことができるのも、やりきった達成感があるからだと思います。

運動会に向け、応援団の子どもたちだけ

でなく、たくさん子ども達が、早起きして朝練習に参加したり、休み時間にやりたい遊びを我慢して練習に取り組んだり、最後まで諦めずに挑戦し続けました。そんな姿から、目標に向かって努力し続けることの大切さを改めて実感すると同時に、子どもたちの可能性を大いに感じます。一人ひとりのもっている力を最大限に引き出し、伸ばしていけるよう、私自身も努力を重ねていきたいと改めて感じた運動会でした。

SAGAMI VOICE

運動会特集



保護者 & 卒業生 VOICE

ゴールデンウィーク明け、我が家の子どもたちは一気に運動会モードに入ります。「明日の朝は早く出るよ!自主練行くから!」。子供たちの言葉に、「今年もいよいよ始まったな。」と胸が躍ります。「今年の全校演技は相模鳴子祭りでね、こんな風に踊るんだよ!」「剣舞の練習、男子が沢山集まって楽しいよ!」「全校演技のペアになる子、すごく可愛いんだよ!」帰宅した息子と娘が、我先にと話し始めます。夕方には練習でクタクタの我が子らを迎え、翌朝には前向きな背中を見つめて送り出す。そんな2週間が続いた後、私にとって宝物の一日を迎えます。

ことに今年は息子が6年生、小学部最後の運動会です。仲間のバトンをギュッと握りしめ、必死に走った色別リレー。男子有志による剣舞では、真剣な眼差しで細い体を必死に踏ん張らせる少

年剣士に、息子の成長を感じました。剣舞、騎馬戦が終わって迎えたお弁当の時間。なかなか来ない息子を心配していると、目を真っ赤にした彼の姿が。「騎馬戦、負けちゃった…。絶対勝たなかったのに…。」普段は飄々としている息子の大粒の涙に、赤組のために本気で戦ってきたのだと、胸をうたれました。

午後部の全校演技。先生方の熱心なご指導に応えようと真剣に踊る姿に、「6年間で最高の演技だったなあ。」と思い始めた曲のラスト。さっと周りを見て、隊形移動した低学年の子の位置をそっと直してあげる息子の姿がありました。

毎年帰り道に、「今年も一生懸命頑張ったね!感動の一日をありがとう!」と、子供たちに伝えていきます。私は、小学部の運動会が大好きです。

(保護者の方のお声)

